

国家戦略特区ワーキンググループ提案に関するヒアリング (議事録)

(開催要領)

- 1 日時 平成 25 年 9 月 19 日 (木) 13:50~14:10
- 2 場所 永田町合同庁舎 7 階特別会議室
- 3 出席

<WG 委員>

委員 坂村 健 東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授

<提案者>

大塚 浩 大分県商工労働部工業振興課産業企画監
本田 真也 大分県商工労働部工業振興課主査
上野 剛 大分県商工労働部産業集積推進室主任
池田 哲 大分県産業科学技術センター電磁力担当主幹研究員
阿南 大輔 大分県企画振興部観光・地域局観光・地域振興課主査
松田 隆 宮崎県総合政策部総合政策課副主幹

<事務局>

川本 正一郎 内閣府地域活性化推進室長
加藤 利男 内閣府地域活性化推進室国家戦略特区総括官
富屋 誠一郎 内閣府地域活性化推進室室長代理
藤原 豊 内閣府地域活性化推進室参事官
宇野 善昌 内閣府地域活性化推進室参事官

(議事次第)

- 1 開会
- 2 議事 (大分県)
大分港における国際ケミカルタンクターミナル構築特区
海外誘客のための旅客専用港湾における「検疫港」の臨時指定
電磁応用関連産業強化特区
(大分県・宮崎県共同提案)
東九州メディカルバレー海外展開戦略特区
- 3 閉会

○藤原参事官 「大分港における国際ケミカルタンクターミナル構築特区」、「海外誘客の

ための旅客専用港湾における『検疫港』の臨時指定」、「電磁応用関連産業強化特区」の3件と、大分県・宮崎県の共同提案になっています「東九州メディカルバレー海外展開戦略特区」ヒアリングを行わせていただきます。提案資料と議事内容は公開をさせていただきます。

それでは、よろしくお願いいたします。

○大塚企画監 今回大分県、一部、宮崎県と共同提案になっておりますが、うち三つは、これまでの取組をベースにした提案です。もう一つ、最初に御説明しますケミカルタンクターミナルはまだまだアイデアの段階まで出ておりません。これから大分県としてもニーズやデータ等をやっていききたいなと思っております。

最初のケミカルタンクターミナルについて簡単に御説明をします。今、石油化学メーカーが取り扱う原料あるいは製品の一部には、利便性の高い韓国蔚山のケミカルタンクターミナルを経由して物流が行われている。そこで、この蔚山と同等以上の利便性を備えたケミカルタンクターミナルを国内に整備することで、事業環境が益々厳しくなっております国内石油化学メーカーの物流コスト低減につなげ、国際競争力の強化を図るというものでございまして、ひいては日本のものづくり産業や国際競争力の強化にもつなげていければいいのではないかとということでございます。

必要な規制改革につきましては、資料でもうたっておりますが、まずは、国際競争力を有したケミカルタンクターミナルとするためには、法律的かつ経済的な設備とする必要があります。消防法の危険物、貯蔵所の設置規制の緩和というのが一つございます。また、現在、危険物、積載船の夜間離着棧の実現というのが日本国内では行われておりません。こういったところも必要性として出てくるのではないかと思っております。

二つ目が、海外誘客のための旅客専用港湾における検疫港の臨時指定というものでございます。現在大分県の別府港におきましては、中国などからの国際クルーズ船が寄港しております。地元自治体等が連携して誘致活動を積極的に展開しているところでございます。しかしながら、別府港が検疫港に指定されていないため、クルーズ船が国外からファーストポートで着岸する場合の検疫検査が行えておりません。そのため、近隣の別府港の検疫区域で検疫検査をした後に別府港に入港することとなりまして、どうしても時間のロスが生じてしまいますことから、寄港地としての別府港の魅力が減じ、誘致活動を行う上での障害となっております。

今回の提案は、国際クルーズ船に限り、検疫港ではない別府港を検疫港である近隣の別府港の飛び地と見なし、臨時的に検疫区域に指定して、検疫港と同様の検査体制を実施していただきたいというものであります。別府港にファーストポートでの寄港ができるようになりますれば、国際クルーズ船の寄港回数の増加と、それによる経済効果の増大が期待できると考えております。

三つ目の提案、電磁応用関連産業強化特区でございます。電磁応用関連産業強化特区につきましては、大分県と大分大学で5年間にわたり取り組んでまいりました、地域結集事

業で構築しました磁気特性の評価解析技術での成果を活用しまして、新たな磁性材料の磁気特性の測定評価の国際評価基準 ITC と呼んでおりますけれども、国際電気標準会議に提案いたしまして、日本の高性能な電磁鋼板の海外市場の拡大を目指すというものであります。また、世界中から測定を受け入れることによりまして、日本を世界の磁気特性測定拠点とすることを目指すというものであります。

最後に四つ目であります。東九州メディカルバレー海外展開戦略特区でございます。これは現在大分県・宮崎県、両県の産学官で取り組んでおります東九州メディカルバレー構想のネットワークを活用しまして、日本の優れた透析技術や透析システムをアジアに広める展開を行い、日本の医療機器の海外市場拡大を目指すものであります。

具体的には、アジアの医師の日本国内での研修やアジアの現地病院の実態調査、技術指導などを行うものでありまして、将来的には例えば、MEJ を母体として全国の医療総合特区が連携し、それぞれの強みを生かしたオールジャパン体制での海外戦略構築へとつなげていきたいと考えております。本構想では海外医師の臨床修練制度の見直し、外国医師の研修に係る出入国事務の軽減、出入国事務取扱書等の拡大などの規制緩和が必要となっているものであります。

短い時間でしたが、以上で説明を終わらせていただきます。

○坂村委員 三つの関連性はないようですが、インディペンデントというか独立した話で、最初の話は国際ケミカルタンクターミナルのお話で、次が電磁応用関連産業を何とかしたいということで、最後はメディカルバレーですね。これは3個の中では、県としてはどれが一番大事だとお考えでしょうか。そういう優先順位はないですか。

○大塚企画監 そうですね。今回は大分県あるいは宮崎県の共同提案がありますが、一押しということではなくて、とにかく色々なアイデアを出すことをまずは主眼に置いてきましたので、それは各部で色々なところで。

○坂村委員 次に、国際ケミカルタンクですけれども、資料を見せていただくと、これは非常に重要だということで色々な産業界も後押ししていて、経済産業省も一緒になってやっているように思うので、着々と進んでいるように見えます。ある意味で県もやっているし、色々な人がやっているわけだから、今から国家戦略特区と言わなくても、もう既に重要特区になっているような感じも受けますが。

○大塚企画監 これは今、大分県で取り組んでいる、あるいは色んなコンビナート地区で取り組まれている内容と、今回提案させていただいたのは、これは大分県独自のアイデアということで、今回提案させていただいたものについての国の取組ですとか、産業界の取組というところでは、まだまだ動きとしてはないものでございます。

○坂村委員 何か協議会が出来たりしているのではないですか。

○大塚企画監 それは大分のコンビナート企業の連携強化策ということでは協議会を立ち上げまして、国の支援も頂きまして、今やっています。例えば、それはこのケミカルタンクというよりは、例えば人材育成、安全の問題が大事になっていますので、コンビナート

企業で働く人材育成ですとか、あるいは一社一社だけの強化策では限界があるので、例えば、隣り合った企業同士で副生物の融通品を効率的にやり取りする中で、お互いにコストを下げるみたいな、そういった方向での後押し、協議の検討ということはしています。

ただ、ケミカルタンク構想については、今まで大分県は特段取組を何か進めてきたというものではございません。今はそういうニーズがあるということだったものですから。

○坂村委員 電磁応用関連産業というのは、具体的に大分県に結構たくさんあるのですか。

○池田研究員 まだ多くはありません。今から育てていこうと。そのために、まず、材料をきちんと計るところに着眼いたしまして、そこから、きちんと計ったデータを使って、モーターとは発電機の設計を行うと。そうすると、設計と実際にできた実測の装置の差が出ないで、試作回数も減らせるしコストも下げられるし、もっと小型・効率化・高出力化を狙えるということで、材料の特性を計るということに特化して、今やってきたところですよ。

○坂村委員 これに関してそちらが要求なさっているのは、そういうことに対する技術的・財政的支援ということになるわけですね。何かの規制があるからできるというわけではないですね。これは技術的・財政的支援が必要だとおっしゃっているんですね。

○池田研究員 はい。

○坂村委員 最後のメディカルバレーに関しては、透析医療技術とか何かのそういう民間会社でサポートをするようなことは既にあるのですか

○上野主任 今、実施主体の中にある旭化成メディカル・川澄化学工業・メディキットというのが透析関連メーカーですけれども、この3社がそれぞれ部材で関与しているところですが、ここには書いていませんが、これ以外のところで、透析で日機装という会社もあります。基本は三つです。ただ、それは元々メディカルバレー構想としてやっていた三つなので、それ以外の透析関連メーカーにもお声がけをして、現在、タイという形で市場ターゲットを絞っていますので、そこではやっていきたいと考えております。

○坂村委員 これも構想に近くて、ただ構想から少し実際にちょっと動いているものもあると。3社と。

○上野主任 そうですね。今、3社プラス1の企業と一緒にやっています。

○坂村委員 分かりました。

○藤原参事官 どうもありがとうございました。